

No.1「ゴールデンウィークが終わるまでに、 新学年の予習をして、授業に臨もう」

Q 1 : いよいよ新学年がやってきます。新学年に備えて行ったほうがよいことは何ですか。

A : (1)「開倫塾 12 の躰(しつけ)プログラム」のすべてを十分に理解した上で、勇気をもって「チャレンジ」、「実行」することです。

(2)そして、ゴールデンウィークが終わるころまでに、少しずつ「学習習慣」を身に着けて、新学年の授業に臨むこと。



(3)「開倫塾 12 の躰(しつけ)プログラム」に少しずつでも OK すから、今からチャレンジし、「学習習慣」を身に着け、新学年の授業に臨むことです。

Q 2 : 「開倫塾12の躰(しつけ)プログラム」というのは何ですか。

A : (1)「学習習慣」を身に着けることが、トップ校や難関校を含め第1志望校合格や、学校成績大幅アップに直結する。これが開倫塾創業以来、40年間の経験を踏まえて考えたことです。

(2)この大切な12の学習習慣を「開倫塾12の躰(しつけ)プログラム」として取りまとめました。12項目ありますので、1年12か月に割り振ってチャレンジしやすくしました。



(3)今年の3月は春休みまで学校が休校で、部活動もありません。そこで、本日3月2日(月)から「開倫塾12の躰(しつけ)プログラム」の詳細を、<塾長メッセージ>として毎日皆様にお伝えしてきました。

(4)3月17日までにそれらを取りまとめて、加筆・修正し、一冊にとりまとめたのが、この「塾生 HAND BOOK 2020」です。

— <執筆者・塾長から一言> —

(1)執筆は、この「開倫塾12の躰(しつけ)プログラム」を取りまとめる責任者である塾長林明夫です。全力を傾注して執筆いたしました。

(2)この<塾長メッセージ>は、これから順次、塾生の皆様に校長先生はじめ先生方を通じてお渡しいたします。開倫塾の H.P.塾長コーナーにも掲載してあります。

(3)是非、自分の力で熟読の上、自分の力で理解し、少しずつで OK ですから、すべての項目にチャレンジしてください。

(4)保護者の皆様も、必ず、お読みください。御祖父母の皆様を含め、御家族の皆様全員で御活用ください。生涯にわたって必ずお役に立つと確信いたします。読み終えたものは、保存して頂き、繰り返しお読みください。

Q 3 : 「開倫塾12の躰(しつけ)プログラム」の第1番目は何ですか。

A : 「次学年の予習をして、新学年に臨もう」です。

(1)なぜなら、新学年の各教科の成績は、新学年の授業開始までにどれだけ予習をしたかで決まる」からです。

(2)ですから、開倫塾の新学年のテキストや、学校の新学年の教科書は、手にした瞬間から予習を始めることをおすすめします。

(3)春休みが終わるまでに、又は、ゴールデンウィークが終わるまでに、何教科かのテキスト・教科書を1冊まるごと予習し終えることを、おすすめいたします。



Q 4 : そこまでやる人がいるのですか。

A : (1)①「学年が始まる前に、又は、ゴールデンウィークが終わるまでに、その学年の教科書を勉強し終えることが、新学年の成績を決める」を知っている人は行います。

②開倫塾では、40年前の創業時から、この「予習の大切さ」を塾生、保護者、地域社会、ビジネスパートナー、すべての先生方・社員の皆様にお伝え続けてきました。

③私が担当する毎週土曜日、午前 9:00 ~ 9:20 に放送中の、CRT ラジオ栃木放送「開倫塾の時間 林明夫の歩きながら考える」でも、33年間お伝え続けてきました。



(2)やる、やらないは自由です。実行すれば、途方もないほど「効果的な学習方法」です。是非、チャレンジすることをおすすめします。

(3)①医学部に進学して医師になった方や、法学部に進学して弁護士や検事、裁判官になった方、偏差値 65 ~ 70 以上のトップ校・難関校に進学なさった方など、多くの塾生が参考にしています。

②逆にいえば、「偏差値65~70以上のトップ校・難関校に入学したければ、1年分の予習をしてから、受験学年を迎える」ことは「常識」といえます。

③小学校 6 年生になってから小学校 6 年生の勉強をしたり、中学校 3 年生になってから中学校 3 年生の勉強をしたり、高校 3 年生になってから高校 3 年生の勉強をするよりは、受験学年になる前の 3 月中に、又は、ゴールデンウィークが終わるまでに、1 教科でも多く、受験学年の勉強を一通りし終えておいたほうが、圧倒的に有利といえます。

(4)①少し先の話になりますが、大学や短期大学、専門学校、専修学校、大学院などで学ぶ場合に、指定された教科書や資料、参考文献、ホームページなどを第 1 回目の授業の前までに 1 回は読み終える。その内容を大体理解してから授業に臨むことは、絶大な効果があります。

②社会に出てから、新しいことを学ぶ場合も同じです。

③予め指定されたテキストや資料は、一通り勉強してから第 1 回目の勉強会に臨む。この予習の基本方法は、すべての分野を勉強する上で極めて役立ちます。

Q 5 : それではお聞きします。「予習」は何のためにするのですか。

A : (1)素晴らしい質問です。さすがは、開倫塾の塾生です。ここから先は、1 年分の予習だけではなく、「毎回の授業前の予習の仕方」も含めて説明しますので、よく理解してくださいね。

(2)「予習」とは、「よくわからないところをはっきりさせて授業に臨むために行うもの」です。

(3)開倫塾や学校のテキスト・教科書を「予習」していると、よくわからないことがたくさん出てくると思います。

(4)「予習」をしていて、「辞書」で調べたり、「参考書」や「インターネット」で調べたり、友達や家の人に聞いたりしてもよくわからないことがあったら、「印」をつけておきましょう。

(5)「予習」を十分に行い、「よくわからないことをはっきりさせてから、開倫塾や学校の先生の授業に臨むこと」をおすすめします。「予習」はそのために行うものです。

Q 6 : エッ、予習をしていてよくわからないことがあったら、辞書や参考書、インターネットなどで調べるのですか。友達や家の人に聞いたりもしたほうがよいのですか。

A : その通りです。

(1)「予習」をしていて意味のよくわからない「語句」があったら、「辞書」や「百科事典」、「用語集」、「参考書」、「インターネット」等を用いて調べることは、「予習」の「常識」です。

(3)友達や家の人など、身近な人の中に、その教科や分野が得意な人がいたら、質問させていただくこともよいと思います。

(4)「よくわからないことをはっきりさせて授業に臨む」とは、そういうことです。

(5)「授業」が終わってもよくわからなければ、先生にお許しをいただき、授業中、又は、授業後、質問させていただきます。

(6)学んだ結果は、「ノート」にしっかりと「メモ」することもお忘れなく。大変貴重な「宝物」となります。



Q7：では、「予習」はどのようにやったらよいのでしょうか。教科ごとに教えてください。

- A：(1)国語と社会と理科の「第1回目の予習」は、「物語」を読むように、1ページから、できるだけゆっくりと読み進めることをおすすめします。
- (2)「そうか、この学年ではこのようなことを学習するのか」という大枠（アウトライン）をまずつかむのが、「第1回目の予習」です。
- (3)「英語」は、教科書本文をスラスラよく読めるようになるまで声を出して読む。できれば、英語だけでなく、国語と社会と理科の3教科も、小さな声を出しながらゆっくりと全文を「音読」することを、「第1回目の予習」としておすすめします。数学の教科書も、小さな声を出して読むことをおすすめします。



Q8：国語と社会と理科の、毎回の授業前の予習はどうしたらよいのですか。

- A：(1)教科ごとにノートを1冊ずつ用意して、1章ずつ項目や重要項目、大切な語句を書き写すこと。
- (2)読んでいて意味のよくわからない語句があったら、「気持ちが悪い」と考え、辞書や各教科の用語集、参考書やインターネットで調べること。
- (3)調べたことは、必ず、「ノートに書き写す」ことです。



〈図書館を使いこなすことを「学習習慣」にしよう〉

- (1)「学校図書館」や「公共図書館」が使用できるようになったら、「予習」は図書館であることをおすすめします。
- (2)図書館での予習が一番効果的であることを、是非、御記憶ください。
- (3)ですから、図書館には毎日行き、図書館を使いこなすことも、身に着けるべき大切な「学習習慣」です。

Q9：「国語」の予習について、もう少し詳しく説明してください。

A：国語は、「国語辞典」「漢字辞典(漢和辞典)」「古語辞典」などの「辞書」は「武士の刀(かたな)」と同じで、国語を勉強するときの「武器」、最大の道具です。

- (1)「国語」の予習で第1番目にしたほうがよいことは、テキスト・教科書の「本文」を「声を出してゆっくりと読むこと」、つまり、「音読」です。
- ①意味がよくわかって、わからなくても、とにかく国語のテキスト・教科書の本文をゆっくりと「音読」することをおすすめします。
- ②音読していて、「読み方」がよくわからない語句があったら、「印」をつけておくこと。あとで「漢字辞典」で読み方を調べ、ふりがな(振り仮名)を「ノート」に書き写しておくことです。
- ③「古文」や「漢文」で読み方や意味がわからないときには、「古語辞典」や「漢字辞典」で調べること。

(2) 「音読練習」をしよう

① 「スラスラとよく読めるようになるまで」、つかえないでよく読めるようになるまで「音読」を繰り返してください。この練習を「音読練習」といいます。

② 「音読練習」の第 1 の目標は、「スラスラといえるようになる」ことです。

③ 「大切と思われる文章」は「何も見ないでスラスラと口をついて出てくるまで音読練習を繰り返す」ことです。「何も見ないでいえるようにまで」なることを「暗唱(あんしょう)」といいます。この「暗唱」が「音読練習」の第 2 目標です



(3) 「国語の予習」として第 2 番目にしたほうがよいことは、よく書けなそうな語句を、「書き順も含め正確に書けるまで練習」する「書き取り練習」です。

① 国語のテキスト・教科書を読んでいて、又、予習として一度解いた問題の中で、書けなそうな語句があったら、人名や地名など固有名詞も含めて、**すべて正確に書けるまで「書き取り練習」**をいたしましょう。

② 何も見ないでスラスラといえるようになった文章、つまり「暗唱(あんしょう)」できた文章を、「何も見ないで書き順も含め正確に書けるまでにする」ことを「暗記」といいます。

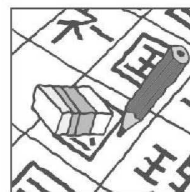
③ まずは「暗唱」できるまで「音読練習」をし、次に「書き取り練習」をしながら、「暗記」できるまでにすることです。過去問も含め、予習として一度解いた問題についてもこれを行えば、必ず、学校の定期試験、模擬試験、入学試験や 3 大検定、国家試験でよい点数が取れます。又、社会に出てからも忘れることはありません。一生役に立ちます。

〈中学高学年・高校・大学生、社会人も「音読練習」と「書き取り練習」を〉

(1) 小学生や中学 1・2 年生は「音読練習」や「書き取り練習」をよくしますが、中学 3 年生や高校生、大学生、専門学校生、専修学校生、大学院生、社会人は「書き取り練習」を全くしない人が多いのが現状です。

(2) これでは、いつまでたってもうろ覚えのまま、難しい語句は身に着きません。中学高学年生と高校生は意識的に「書き取り練習」をするように心掛けてください。

(3) 「ことばは力」「ことばの数は力」「語彙(ごい)数は力」です。大学生、大学院生、社会人になっても「書き取り練習」をするように心掛けて、「書き順」も含め正確に身に着けてください。



Q10: この「国語」の「音読練習」「書き取り練習」をしながらの予習の仕方は、「社会」「理科」「英語」の予習にもそっくり当てはまるではありませんか。

A : (1) その通りです。さすが、開倫塾の塾生ですね。ただし、「社会」や「理科」は、「国語辞典」「漢字辞典」だけでは不十分です。「予習」していて意味のよくわからない「語句」が出てきたときに調べるのに役立つのは、「社会」や「理科」の「分野別用語集」「学年別・分野別参考書」「百科事典」「インターネット」です。
(2) これらは、家庭にない場合が多いのですが、図書館ならどこにでもあります。学校図書館や公共図書館が使用できるようになったら大いに活用いたしましょう。
(3) 「国語」はもちろんのこと、「社会」「理科」「英語」も、「音読練習」「書き取り練習」を「予習」の段階でも繰り返し行い、学校の授業が始まるまでにすべて身に付けてしまいましょう。「身に付けること」を「定着」といいます。すべて「定着」させてしまいましょう。



Q11: 「英語」について、もう少し詳しく予習の仕方を説明してください。

A : (1) 開倫塾の英語の「テキスト」、学校の英語の「教科書」をできるだけ早め、早めに徹底的に「予習」してください。できれば、1冊全部、早めに「予習」し終わってください。「予習」するのに遠慮は一切不要です。
(2) 開倫塾のテキストは問題が多いですが、予習として一度解いた問題は、問題文や設問、選択肢も含め「音読練習」「書き取り練習」を必ず行ってください。
① 学校の教科書の本文や開倫塾のテキストの問題文の本文は、スラスラと読めるようになるまで「音読練習」をすること。
② 「音読練習」をしていて、意味のよくわからない語句があったら、「気持ちが悪い」と考え、「印」をつけておき、あとで「英和辞典」「和英辞典」「英英辞典」を用いて徹底的に調べる。辞書で調べたことは必ず「ノート」に書き写し、繰り返し読み込んで正確に覚えることです。
③ 英語の綴り(つづり、スペリング)の「読み方」がわからない場合には、辞書の「**発音記号**」を書き写すこと。「発音記号」の「読み方」がわからないときには、辞書の最初のほうに出ている「発音記号の読み方」のコーナーをよく読むこと。それでも「発音記号の読み方」がわからなければ、開倫塾の先生に質問してください。4月に学校が始まったら、学校の先生にも質問してくださいね。

＜「発音記号」と「文法用語」も身に着けよう＞

- (1) 高校を卒業するまでに「発音記号」に慣れ親しみ、「発音記号」の読み方を身に付けてください。大学に進学してから、社会に出てから、「英語以外の外国語」を学ぶときに役立ちます。
(2) 英語の「文法用語」も身に付けてください。「英語以外の外国語」を学ぶときにも「文法用語」が出てきますので、そのときに役立ちます。
(3) 「英語の学習を通して、語学の学習の仕方も身に着けること」を心掛けてくださいね。

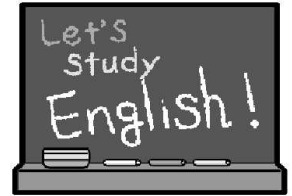


(3)①英語の「音読練習」と「書き取り練習」の第1目標は、「スラスラといえるようにまでなること」です。

②第2目標は、「何も見ないでいえるようになること」つまり「暗唱(あんしょう)」です。

③第3目標は、「一度学んだ英語の文章が何も見ないで書けるまでになること」つまり「暗記(あんき)」です。

*「予習」の段階でここまで済ませてから、英語の授業に出ることを目指しましょう。



Q12:「数学」の予習はどのように行えばよいのですか。

A : (1)①数学の予習は、1 ページずつ「例題」「基本問題」「練習問題」「応用問題」をノートに解いていく以外ありません。

②その際に大切なことは、答えだけでなく、必ず問題文も書き写し、その下に解答を書くことです。答えだけでなく、解答にいたる計算などもすべて書くことがポイントです。

③ノートの使い方は自由ですが、普通は左側のページを予習用に使い、右側のページはすべて空けておくことが多いようです。

(2)①問題を解いていてよくわからなければ、解答にいたる計算などを書くスペースを空けておき、次の問題に挑戦することです。

②解き方や考え方がわからない問題は、学年別・分野別の「参考書」や「算数辞典」、「数学辞典」を参考に「解き方」を考えましょう。

(3)①数学の「参考書」や「数学辞典」などには、よく探せば、似たような問題、「類似(るいじ)問題」が必ずあります。



②なぜそのように解くのか、よく考えながら、類似問題の問題文と解き方を「ノート」にしっかり書き写すことをおすすめします。

③書き写し終えたら、何も見ないで、その計算や問題をもう一度ノートに解き直してみると、とてもよくわかってきます。

Q13:「音楽」「美術」「技術・家庭」「保健体育」なども「次学年の予習」をして新学年の授業に臨むほうがよいのですか。



A : (1)もちろん、その通りです。各教科の教科書が手に入ったら、その瞬間から、1教科でも多く、最後のページまで目を通してください。

(2)塾生の皆様の中で、楽器を演奏できる方や、音譜が読めて歌が歌える方は、「音楽」の教科書を手にしたら、一通り、自分の得意な楽器で演奏したり、歌ってみたりすることをおすすめします。このような音楽の「予習」ほど楽しい予習はありません。

(3)「美術」「技術・家庭」「保健体育」の教科書も、よく読めば面白くてために

なる内容がぎっしり詰まっています。ノートを取ったり、辞書で調べたりしなくても OK です。寝転びながらでもいいですから、それらの教科書をゴールデンウィークが終わるまでに、読んでしまってください。これからの 1 年が、素晴らしい学校生活になりますよ。

Q14 : 全部の教科の予習を1年分したほうがよいのですか。

A : (1)よくできる教科だけでも、挑戦してください。又、興味のある教科や成績アップを図りたい教科も、是非、チャレンジしてください。



(2)ただし、不得意な教科や苦手な教科は、よくわからないところまで、思い切って以前の学年にまでさかのぼり、ゼロからやり直すことをおすすめします。

(3)中学 3 年生でも、小学校で学ぶ漢字や計算が苦手だったら、苦手な学年までさかのぼって、ゼロからもう一度学び直しましょう。「よくわからないところまで遡(さかのぼ)って学び直すこと」を、開倫塾では「遡及(そきゅう)学習」と呼んでいます。

Q15 : 教科書全部を予習するのは大変そうですが…。

A : (1)1 冊全部「予習」できそうな教科は、ゴールデンウィークが終わるまでに全部やり終える。

(2)ちょっと難しそうなら、教科書の第 1 章、第 2 章の半分までなどと、無理がない範囲で「予習」をしてくださいね。

(3)少しでも、次学年や次の学期、来月や来週、明日学ぶ内容を予め勉強することで、すべての教科の内容に興味をもてますよ。

Q16 : 毎回の授業の前にも予習をしたほうがよいのですか。

A : (1)もちろん、その通りです。

(2)①まずは、すべての教科書を、声を出して読む「音読」をすること。

②意味のよくわからない語句があったら、「気持ちが悪い」と考え、必ず「辞書」「用語集」「参考書」「インターネット」などで調べる。調べたことはノートに書き写して、覚えること。

③「練習問題」や「計算問題」などがあつたら、問題文を書き写し、必ずノートに解くこと。数学や算数は計算などの解き方もすべてノートに書き写すこと。

(3)予習をしていて、よく「理解」したら、予習の段階でも、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を繰り返し、

①教科書はスラスラとよく読めるようにすること

②何も見ないでスラスラといえるまでにすること(暗唱)

③大切なことは、何も見ないで正確に書けるまでにすること(暗記)



④大事な計算や問題は、問題を見た瞬間に正解が出るまでにすること

Q17：何だか、今までのお話のまとめみたいですね。

A：(1)学年が始まる前に1回目の「予習」をする。これに加えて、学年の途中、授業の前にも必ず「予習」をする。

(2)「予習」をして内容がよくわかったところは、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」をしてすべて身に着ける。

(3)これが「よくわからないところをはっきりさせてから授業に臨む」という意味での「予習」の極意といえます。是非、チャレンジを。



Q18：最後に一言どうぞ。

A：(1)①「予習」をしてよく「理解」できたところは、「予習」の段階で「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」をする。

②そして、何も見ないでスラスラとよく読めるようにする(暗誦)、何も見ないで書けるようにする(暗記)ことに、少しずつでもチャレンジすること。

③「予習」をして「よくわからないところをはっきりさせてから授業に臨む」。

(2)①このようなやり方での「予習」に少しずつでもチャレンジすることは、小学校でも、中学校でも、高校でも役に立ちますが、実は、大学、短期大学、専門学校、専修学校、大学院、もっとはっきり言えば、社会に出てからの勉強に絶大な効果があります。



②なぜなら、これからの大学などでは「アクティブ・ラーニング」といって「予習」のときに教科の「内容」を理解し、少しでも身に着け、又、何がわからないかをはっきりさせたり、与えられた課題について自分の考えをまとめてから授業に臨むことが求められるからです。

③社会に出てからも新しく勉強することが山のようにどんどん出てきます。小学校、中学校、高校、大学で行った予習のように、自分の力で新しい分野を勉強することが求められるのは、実は社会に出てからのなのです。ここで話した「予習の仕方」は、実は大学や社会に出てから「絶大な効果」を発揮するものです。今のうちにしっかり身に着けてください。

(3)小学生、中学生、高校生のうちから、少しずつでも「次学年の予習をして、新学年に臨むこと」「毎回、授業の前に予習をして授業に臨むこと」を「学習習慣」として身に着けてください。

(4)この3月・4月は次学年の「予習」をするのに絶好のチャンスです。夏休みも2学期の予習をする絶好のチャンス、冬休みも3学期の予習をする絶好のチャンスです。少しでもOKですから、是非、チャレンジしてくださいね。